

# 令和3年度 後期 学校評価

資料1 自己評価

資料2 生徒アンケート

資料3 保護者アンケート

南アルプス市立  
白根御勅使中学校

令和3年度

白根御勅使中学校関係者評価委員

秋 山 契 様

岡 貞 善 様

松 本 卓 馬 様

田草川 リルド 様

横 内 綾 子 様

## 1 学校評価の目的

- ① 各学校が、自らの教育活動その他学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

## 2 学校評価の方法

- ① 自己評価は、全職員による自己評価をもとに、生徒・保護者へのアンケート（生徒年2回、保護者年1回）の結果を加えて行う。
- ② 自己評価は、年2回行う。
- ③ 自己評価の結果を踏まえて、学校関係者評価委員会による学校関係者評価を年2回行う。
- ④ 自己評価と学校関係者評価の結果を公表する。
- ⑤ 自己評価と学校関係者評価の結果をもとに、改善点を全職員で共有し、来年度以降の学校教育に活かしていく。

### 3 後期自己評価

#### I 自己評価の具体的方法

- ① 本年度の学校教育目標をふまえて、評価項目を決定する。
- ② 全職員が評価項目を4段階で評価する。
  - 4 ; あてはまる
  - 3 ; どちらかというにあてはまる
  - 2 ; どちらかというにあてはまらない
  - 1 ; あてはまらない
- ③ 全員の評価結果を集計し、項目ごとの平均値を算出する（小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁で数値化）。この平均値を次のカッティングポイントに照らして、判定する。

3. 0以上	.....	A (概ね良好である)
2. 9～2. 5	.....	B (工夫・改善の余地がある。)
.....		
2. 4～2. 1	.....	C (工夫・改善が必要である。)
2. 0以下	.....	D (根本的に工夫・改善を図る必要がある。)

- ④ 全生徒と全保護者に向けて行うアンケートは、職員の自己評価項目と関連させながら項目を決定し、職員の自己評価同様4段階の数値で評価する。アンケートの結果から項目ごとの平均値を算出し、職員の自己評価と同じカッティングポイントで判定（A～D）する。
- ⑤ 職員による自己評価をもとに、これに生徒・保護者へのアンケート結果を加えて自己評価書を作成する。

## Ⅱ 後期自己評価結果（自己評価書）

南アルプス市立白根御勅使中学校	令和3年12月21日（火）作成
学校長 清水英樹	記載者氏名 教頭 今津義弘

### 1 本年度の学校教育目標

(1) 校訓 「一生懸命」

(2) 学校教育目標 「志を持ち、道を拓く生徒」

(3) 目指す生徒像

知を磨く生徒 心を耕す生徒 体を鍛える生徒 故郷を愛する生徒

(4) 令和3年度指導重点

- 「新しい時代に必要となる資質、能力」をはぐくむ教育課程の編成
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた確かな学力の育成
- 様々な体験活動を通じた豊かな心の育成
- 実践活動から鍛える、健やかな体の育成
- 地域や世界で活躍できる人材の育成
- 途切れのない特別支援教育の充実
- 教育全体の土台となる学校経営の充実

### 2 職員自己評価集計結果（資料1）、生徒アンケート（資料2）保護者アンケート（資料3）

令和3年12月に、学校職員による自己評価及び生徒によるアンケート・保護者によるアンケートを実施した。その質問項目と集計結果を、資料1～3に示した。後期の自己評価と生徒アンケートは、前期と同じ評価項目で実施した。

保護者アンケートは、年1回後期のみの実施である。学校の様子が保護者にも十分伝わった後期にアンケートを取り、その後及び翌年度の教育活動に生かしていく。項目は生徒アンケートと内容を一致させるように見直した。昨年に引き続き、今年度もコロナ禍のため学校行事やPTA行事の多くが内容変更や規模縮小などがあり、例年通りの教育活動ができない状況もあった。

このような状況であるが、保護者アンケートの回答率は99.5%と非常に高い回収率になっている。それだけ保護者の学校への協力意識が高く、連携、協同していく姿勢のあらわれであると考え。今後も家庭と学校の連携をさらに推進していきたい。

尚、自己評価及び生徒・保護者アンケートともに、昨年度同様、記名式とした。

### 3 評価と改善策

#### (1) 全体的な評価

職員による自己評価は、前期と同様の質問を行い、各教育活動実践後の評価の比較も行った。後期の自己評価に関しては全25項目中11項目で前期を上回り、特に「基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指した指導」「生徒理解のために生徒とのコミュニケーションに努め、誠意をもって接している」「生徒は部活動や学校行事等様々な活動に積極的に参加している」の項目では0.2ポイントの上昇が見られた。下降した項目は5項目あったが、いずれも0.1ポイントであり、一番低い項目でも3.4と高いポイントである。この結果から、コロナ禍が続く中、教職員は高い意識を持って、職務遂行に努めていることが見てとれる。

全25項目がA評価であるが、今後も新型コロナウイルス感染症対策が続く中での教育活動が続くが、新学習指導要領の実現やGIGAスクール構想の推進など多くの教育課題に向けて、ひとり一人の教職員が高い意識を持ち、白根御勅使中学校としての組織性、協働性をしっかりと構築し、教育活動に取り組んでいく必要がある。

生徒のアンケートについても、全19項目が前期に続きA判定であった。前期と比較すると0.1ポイント上昇した項目が7項目、0.1ポイント下降した項目が1項目であった。2学期の始まりがコロナ蔓延防止対策により各クラスを2つに分け、分散授業を2週間行った。クロムブックを活用し、慣れない環境ではあったが、本校では分散登校をしなくても授業が行える環境があり、落ち着いて学習に取り組めた。また学園祭、強歩大会、合唱祭と各行事を今ある状況の中で精一杯取り組めたことが、後期の生徒評価にもつながっていると考えられる。

しかし、学年ごとの評価を見てみると、3.0に届かない項目も見られる。「家庭学習が習慣になっている」は1.2年生、「卒業後の進路や将来の仕事を考える」は1年生のポイントが3.0に届いていない。前期に比べても下がっている項目でもあり、特に「卒業後の進路や将来の仕事を考える」は保護者の項目でも3.0ポイントを下回る学年もあり、今後はキャリア教育、進路学習をより一層充実させ、1学年の頃から3年間を見通して計画的に行っていく必要がある、学校と家庭が連携して取り組んでいかなくてはならない課題であると捉えている。またNo.5「家庭学習」は0.1ポイント下降しており、保護者アンケートにおいても平均値3.0ポイントと高くはない。このことから、今後重点的に取り組む課題の一つとして、改善に努めなければならない。一人一台端末を家庭学習にも有効活用していけるような具体的な取り組みを行っていききたい。

後期実施の保護者のアンケートについては、21項目中20項目でA判定、1項目がB判定という結果であった。B判定は「お子さんは授業の内容がわかっていますか」の項目であり、昨年度と同じB判定となった。また「学習に意欲的に取り組んでいる。」「家庭学習が習慣になっている」の項目も3.0ポイントであり、学習面においては、保護者の思いに対して足りない面があると言える。今後教員の授業指導の工夫や、授業内容の改善、一人一台端末を有効的に活用したICT活用指導力を向上させるなど、確かな学力を身に付けられるように積極的に取り組んでいく必要がある。また家庭学習の習慣づけや充実に向け、校内研究会等にも取り入れ、具体的な策を考えていく必要がある。

以上の結果については、全教職員で共通理解し具体的に改善に努め、今後の白根御勅使中学校の教育水準の向上に生かしていききたい。

## (2) 各項目の評価と改善策

### 評価項目Ⅰ 「学校教育目標」に関して

#### 【自己評価 改善策】

2項目ともA判定であり、前期と同じ3.8ポイントであった。今年度も未曾有の災害とも言えるコロナ禍が続く中での教育活動が続いているが、学校教育目標の実現に向けて、一つ一つの活動に対して、教職員が高い意識や意欲を持ち、今できることを精一杯取り組んでいると考える。

現状に満足せず、急激に変化している社会の状況、生徒の実態をしっかりと見据えながら、今まで以上に全教職員が全ての教育活動に高い意識を持って取り組んでいくことが必要である。後期「校訓」「学校教育目標」が教職員だけではなく、生徒からもいろいろな場面で話されていた様子が見られた。今後も生徒はもちろん、保護者や地域にも周知していけるよう努力していきたい。

### 評価項目Ⅱ 「学校経営・学校運営」に関して

#### 【自己評価 改善策】

6項目すべてがA判定であり、平均値も3.5～3.9ポイントという高評価であった。前期に比べ下回っている項目もあるが、どれも0.1ポイントであり、高いポイントでの数値に変わりはない状況である。しかし全体的には高評価ではあるが、コロナ禍が続いている状況を考えると「危機管理につとめている」では(3)の「どちらかというにあてはまる」が8人、「環境整備を適切に行っている」では(3)が10人、(2)が1人いることもしっかりと確認する中で、学校の安全・安心をしっかりと確保していける環境を築き、教職員の危機管理意識を高めていけるよう努力していきたい。

本校は校舎、グラウンド、体育館やその他の施設も含め、教育環境に大変恵まれている。特に校舎に関しては新しく建てられてから4年目であり、予備教室やオープンスペースも広く作られているため、2学期初めの蔓延防止対策期間に他校が分散登校を余儀なくされている時でも、通常登校を行える環境であった。今後もこの環境に頼るのではなく、さらに有効活用し、より充実した環境づくりを意識することが必要である。また危機管理マニュアルや学校保健計画もコロナ感染の状況と学校や生徒の実態をしっかりと把握する中で作成、見直しを行い、学校の対策や教職員の対応をより明確にしていくことが大切である。

教職員の相互理解・信頼関係や学校運営への参画に関しても、全体的に高評価であり、校内の各会議や委員会など高い組織性、協働性を意識した取り組みが行われている。今後も校務分掌で定められた役割を中心に、ひとり一人が自分の役割に責任を持ち、多くの教育課題に対して組織的な取り組みを推進していく。

### 評価項目Ⅲ 「学習指導」に関して

#### 【自己評価・改善策】

6項目すべてがA判定であった。前期と比較しても6項目中5項目で上昇し、1項目で下降が見られた。特に「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」の項目では0.2ポイント上昇していて、教員の授業改善や学習指導に対する意識や意欲が高いことがうかがえる。

本校では、昨年度から教育センターと連携した研究協力校として、教員の授業力の向上に力を入れてきた。校内研究会のテーマも「自ら学び 互いに高め合う 心豊かな生徒の育成」とし「主体的 対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、研究授業等を行う中で確かな学力の定着を目指している。

また今年度はGIGAスクール構想に伴うひとり一台端末を活用した授業づくりも同時に行っている。話し合い活動や発表の方法、課題や宿題の出し方など今までとは異なる形態での実施であり、まだまだ戸惑う状況も見られるが、情報主任を中心に積極的に導入する中で、より有効的に活用していけるよう今後も意欲的に取り組んでいきたい。また端末機の活用により、ひとり一人の生徒に「個別最適な学習」の環境がつけられるよう、また「協働的な学び」の幅も広げていけるよう教員のICT活用指導力の向上にも取り組んでいきたい。

「道徳教育」は前期よりも0.1ポイント上昇しているが、今後も特別な教科道徳の授業を中心に各教育活動を通して、豊かな心の育成に取り組んでいく。

また「学習習慣の確立」も前期より0.1ポイント上昇して3.6ポイントと高評価だが、この項目に関しては生徒アンケート(3・1)、保護者アンケート(3.0)の結果との差が大きい項目である。「家庭での学習習慣」に関しては以前より課題として挙げられているが、大きく改善している状況が見られないところである。多々単に宿題や課題を出すのではなく家庭と連携して家庭の学習習慣の定着を考えていく必要がある。生徒の携帯電話やスマホの使用時間が年々長くなっている状況も、家庭学習に大きな影響を与えていることも懸念される。10月にはPTAと小中が連携し学校保健委員会が主催した講演会を行った。県の精神福祉センター所長の志田博和先生を講師として「ゆりかごから・・・スマホがつくる孤独、癒す孤独」と題しスマホ、インターネットが子どもたちに与える影響について学んだ。また冬休みの取り組みとしてアウトメディア(テレビ、ゲーム機、スマホ、パソコンなどの電子メディアを使う時間をコントロールすること。「自分の生活を見直し、上手につきあっていこう」)も行った。今後も携帯電話やスマホの使用に関しては、PTAと連携した学習会や講師を招いての講演会等も計画し、携帯電話やスマホの使い方、家庭でのルール作りなども学校と家庭が連携して行っていく必要がある。

#### 評価項目Ⅳ 「生徒指導」に関して

##### 【自己評価 改善策】

5項目すべてがA判定であり、4つの項目が3.8～3.9ポイントの高評価であった。前期と比較し、5項目中2項目が上昇した。特に「生徒とのコミュニケーション」は前期より0.1上昇し3.9ポイントであり、「いじめや問題行動の防止・発見・対応」の項目は、前期に比べ0.2ポイント上昇し3.8ポイントになった。日頃から教職員が、生徒一人ひとりを理解しようと努力している様子が見て取れる。後期も学校全体が落ち着いた雰囲気の中活動が行われており、大きな問題行動等はなかった。SNSのトラブルに関しては多少あったが教員が指導に入り、親身になって対応することで解決に努めている。また愛知県で起こった中学生による殺傷事件においても、翌日には、全校生徒に命の大切さについての道徳指導と悩みごとアンケートを実施するなどの対応を行った。

また「適切な部活動指導」については、3.4ポイントとA評価ではあるが、5項目の中では低い数値になっている。2学期の初めは、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策のため、部活動等が制限されたり、活動できない状況もある中で、中巨摩新人戦や県の新人戦への参加も大変な様子も見られた。しかしそのような中ではあったが、女子テニス部は県代表として関東大会に出場し、県駅伝大会においては男子チームが過去最高の7位に入賞するなど、少ない練習時間の中でも精一杯頑張った成果にも繋がった。「部活動の取り組み」に関しては生徒アンケートでは3.6ポイント、保護者アンケートでは3.8ポイントと高い数値になっている。制限のある中ではあったが、意識を高く持ち、意欲を持って取り組んでいる状況が見て取れる。

本校では学校の部活動以外に、学校外のクラブチームに所属したり、個人的な競技等で頑張っている生徒も多い。一人一人の生徒に誠実に向き合い寄り添うことを大切にするためにも、各クラブチームとも連携していく体制を構築し、健全な育成を目指していくことも大切になってくる。

また、昨今問題になっているヤングケアラーについても、家庭や外部機関と情報交換をしっかりと行う中で幅広い支援が出来るよう体制づくりを進めていく。今後も各課題や諸問題動に対してもSC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）、市教育委員会等の関係機関とも積極的に連携し、早期対応・早期解決に努めていく。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けても学校、家庭、地域社会が連携・協働した体制を築き、信頼関係を深めていくことが大切である。

#### V 「家庭・地域との連携」に関して

##### 【自己評価 改善策】

3項目すべてにおいてA判定となった。昨年度に続き今年度もコロナ禍のため、保護者に学校へ来ていただく機会も制限を設けたため、十分な参観ができない状況もあったが、その分学校通信、学年・学級通信やホームページでの紹介、CATVと連携した行事配信などを積極的に行ってきた。保護者アンケートにおいても、3.5ポイントであり保護者の理解は得られていると考えているが、今後もコロナ感染の状況を判断する中で、できるだけ学校の教育活動の様子を参観していただけるよう努力していきたい。

また地域との連携も昨年度はできなかった「あいさつ運動」を地域の方と生活委員会の生徒が連携して行うことができた。生徒のあいさつの様子も以前より良くなっており、地域の方から電話で「よくあいさつしてくれてうれしいです」と連絡をいただくことがあった。学校としても非常にありがたいメッセージだった。

今後も状況を判断しながら、積極的に地域と連携した教育活動に取り組み、伝統ある白根御勅使中学校として地域・保護者・生徒から信頼され、地域の誇りとなるよう努めていきたい。

## VI 「学校の特徴」に関して

### 【自己評価 改善策】

3項目すべてがA判定だった。特に前期に比べ「あいさつ」のポイントが0.1ポイントと「部活動 学校行事参加」に関しては0.2ポイント上昇している。

あいさつについては生徒会の活動や各部活動においてもその大切さを確認し、あいさつの広がる学校にしていけるよう取り組んでいる。また小中連携の活動として、学期に1回中学生が各小学校を訪れ、朝のあいさつ運動を行っている。Vの項目でも述べたように、以前より生徒のあいさつの状況が良くなっている様子が教職員のアンケートにも表れ、地域の方からも好意的な連絡をいただくこともあった。感染対策により常にマスクをしているため、表情や言葉も伝わりにくい現状もあるが、今後取り組みを続け、気持ちの良いあいさつが広がる白根御勅使中学校にしていきたい。

また「部活動や学校行事への参加」は前期に比べ0.2ポイントアップとなった。コロナ禍ではあったが、学園祭や強歩大会、合唱祭などの行事内容をしっかりと考えながら、生徒が充実できるよう取り組み、多くの成果を上げることができた。

今後もコロナ禍は続くが、部活動・行事とも生徒の体験的、協働的な学びとして、豊かな心を育成していけるよう努力していきたい。

毎朝行っている10分間読書は定着している。今後も、読書時間の確保はもちろん、質の向上等にも取り組んでいく。またアドジャン「チョコ丸」タイムも相互理解、言語活動の推進、多様性を学ぶ機会として、一層の充実を図っていきたい。

## 4 学校関係者評価

### I 第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和4年1月12日（水）午後6時30分～8時00分

会 場：白根御勅使中学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員 …… 秋山 契（委員長） 岡 貞善（副委員長）

松本 卓馬 田草川リルド 横内 綾子

学校職員 …………… 校長：清水 英樹 教頭：今津 義弘

教務主任：平賀 文仁

#### 1 学校側から提案された内容

- (1) 白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会会則について
- (2) 学校評価の目的について
- (3) 学校評価の方法について
- (4) 後期自己評価及び生徒アンケート・保護者アンケートの結果について

#### 2 協議された主な内容

- (1) 自己評価結果についての全体評価
- (2) 自己評価結果から課題となる項目について
- (3) 生徒アンケート・保護者アンケートの結果と課題となる項目について
- (4) その他

### II 令和3年度 南アルプス市立白根御勅使中学校学校関係者評価書 （写）

平成4年1月18日（火）

学校関係者評価委員作成

職員による自己評価は、前期と同様の質問を行い、各教育活動実践後の評価の比較も行った。後期の評価も前期に続き全25項目がA判定であった。後期の自己評価に関しては全25項目中11項目で前期を上回った。下降した項目は5項目あったが、いずれも0.1ポイントであり、一番低い項目でも3.4と高いポイントである。この結果から、コロナ禍が続く中、教職員は高い意識を持って、職務遂行に努めていることが見てとれるという説明があった。

生徒のアンケートについても、全19項目が前期に続きA判定であった。前期と比較すると0.1ポイント上昇した項目が7項目、0.1ポイント下降した項目が1項目であった。2学期の始まりがコロナ蔓延防止対策により、他校が分散登校を余儀なくされている時期にも、本校では分散登校をしなくても授業が行える広いスペース、環境があり落ち着いて学習に取り組めた。また学園祭、強歩大会、合唱祭と各行事を今ある状況の中で精一杯取り組めたことが、後期の生徒や保護者の高い評価につながっていると考えられると説明があった。今後もコロナ禍は続いていくが、3年生の進路決定や受験期に入るのでこれまで以上に感染症対策をしっかりと行ってほしい。また新学習指導要領の実現やGIGAスクール構想の推進など多くの教育課題に向けて、ひとり一人の教職員が高い意識を持ち、白根御勅使中学校としての組織性、協働性をしっかりと構築し、教育活動に取り組んでほしい。

課題として挙げられたのが、学年ごとの評価の中で見られた3.0に届かない項目「家庭学習が習慣になっている」「卒業後の進路や将来の仕事を考える」であり、前期に比べても下がっている項目でもある。特に「卒業後の進路や将来の仕事を考える」は保護者の項目でも3.0ポイントを下回る学年もある。中学生の段階から具体的な仕事をイメージするのは難しいが、将来に向けての意識付けをキャリア教

育、進路学習を一層充実させながら取り組んでいってほしい。また No. 5「家庭学習」については0.1ポイント下降しており、保護者アンケートにおいても平均値3.0ポイントと高い評価ではない。このことから、今後重点的に取り組む課題の一つとして改善に努めなければならない。家庭の学習習慣がなかなか身につかない要因の一つに、スマホやインターネットの所持率が上がり、使用時間が長くなっていることがあげられた。学校では小中、PTAが連携し子どものスマホ・インターネット使用についての講演会を行ったり、冬休みには自分で使用時間をコントロールするアウトメディアに取り組んでいる。この問題は白根御勅使中学校に限らず全国的な課題でもあるが、家庭でのルールづくりや保護者の意識がとても大切であり、今後も適切な使用に向けて学校と家庭が連携した取り組みを行ってほしい。

また生徒アンケート「学校は楽しい」について、学年が上がるごとにポイントが下がっている要因については、将来や進路のこと、受験のことや思春期の中で友達関係についても考えるようになっていくなどがあげられた。今後も悩みや学習課題のある生徒ひとり一人に寄り添った指導を行ってほしい。いじめに対するアンケートについては年数回行っており、数件のいじめは報告されているが、どれも軽度と考えられ、早期の対応で解決に向かっていると説明を受けた。社会ではいじめから大きな事件につながっているため、今後も丁寧で敏速な対応や指導を行ってほしい。

生徒や保護者の意見を見ると、学校全体が落ち着いていて、学校への理解や先生方への感謝の気持ちを持つ保護者が多いことがわかる。地域でも中学生が、よくあいさつをしてくれるという話を聞くこともあるので、今後も学校の特色であるあいさつを大切にしていってほしい。

本校のアンケートは記名式であるので、保護者も責任をもって意見を述べていることは大切なことである。生徒も誰がどんな答えを選択したか、教師が把握できているので、子供の気持ちに寄り添った対応やきめ細やかな指導をお願いしたい。

コロナ禍の非常事態は今後も続いていくが、学校と家庭や地域が連携し健全な子どもたちを育成していけるような体制づくりに努力してほしい。今年度の結果については、全教職員で共通理解する中で教育水準の向上に生かし、白根御勅使中学校の教育活動がますます向上していくことを期待する。

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会委員長

秋 山 契 印